

加拿多

七十三哩九分

合計二千五百〇六哩五

メキシコ

二百三十三哩

○各國最近十年間ノ平均鐵道壹哩壹噸ノ運賃 全上

日耳曼

一錢五五八

ハンガリー

一錢七〇五

佛朗西

一錢六三一

和蘭

一錢一三四

比耳義

一錢三七二

伊多利

一錢六七一

瑞西

二錢四五〇

○世界各國鐵道ノ延長及氣罐車ノ數輛 Engineering News July 5 1890

國名	千八百八十四年調 線路ノ延長	千八百八十八年調 線路ノ延長	汽罐車ノ數
ブルシヤ	一三五七二哩	一五、一二〇哩	
ハベールリヤ	三、二一九	三、三二四	
サクソニー	一三、四九	一、三八九	
ナルテンボルグ	八九六	九一五	一一、八一輛
ハーデン	八二六	八七九	
アルサス	八一六	九〇五	
其他日耳曼各州	二、二五一	二、七八一	
澳國	一、三七一五	一、五九八八	四、六一〇
英國	一、八、八七二	一、九、九二〇	一、五、五五二

佛 國	一九三九八	二二、九一二	九七四七
魯 國	一六、〇一一	一八、二七四	六、五九一
伊 多 利	六、二五四	七、六七五	二、二五六
比 耳 義	二、七二三	三、〇〇〇	一、七九二
和 蘭	一、六五〇	一、八六四	六五七
瑞 西	一、七七四	一、八四八	六五〇
西 班 牙	五三九六	六、〇〇八	一、六一六
葡 萄 牙	九四九	一、一八九	—
噠 國	一、一八一	一、二三四	—
那 威	九七一	九七一	一三九
瑞 典	四、一〇一	四、六七七	七二七
セ ル ビ ヤ	一五一	三二七	—
ロ ー マ ニ ヤ	九九五	一五三八	—
希 臘	一〇九	四一六	—
土 耳 古	八六七	一、〇二四	—
マ ル タ	—	七	—
米 國 合 衆 國	一二五、三五八	一五六、一五三	二九、三九八
カ ナ ダ	九六五〇	一五、一六二	—

拔萃

ニユーフハウントランド	五〇	八〇	—
メキシコ	三、三三二	四、一七七	—
中央亞米利加	三、五二	五、三三	—
コロンピヤ	一、六五	二、一一	—
キユバ	九、九四	九、九四	—
ベネヂユラ	八、六	二、四九	—
ドミニカン共和國	五〇	七、一	—
ポルトリコ	一、一	一、一	—
ブラシル	三、七九九	五、五四九	二、二四
アルゼンタイン共和國	二、五四八	四、五〇九	—
パラグエー	四、五	九、四	—
ウルグエー	二、九二	三、九九	—
智利	一、二五〇	一、八〇二	—
ボリビヤ	三、五	八、一	—
ペリユウ	八、一四	八、三七	—
エクエートル	四、三	一、二七	—
英領グエネア	二、二	二、二	—
ジャメカ其他	九、九	二、九五	—

四百三十三

英領印度	一一、五二七	一四、五一五	三三、三四
錫蘭 嗎	一六二	一八〇	—
アシヤマイノル	二二一	四〇五	—
アシヤ魯國	一四四	八九一	—
ペルシヤ	—	一一	—
和蘭印度	七二五	七六三	—
日本	二六五	七二一	—
マレー國	—	三一	—
支那	七	八六	—
コーチン支那	五二	五二	—
埃及	九三二	九三二	—
アルセリヤ及チユニス	一一、〇三	一一、七七一	二四三
ケープコロニー	一、五四五	一、七七六	—
ナタール	一〇七	二一七	四八
南アフリカ共和國	—	五〇	—
モルチアス其他	一六八	四一六	—
ニュージラランド	一、五七〇	一、八六八	二七一
ピクトリヤ	一、六六三	二、一六七	三六四

ニウサウスウエールス	一六八七	二、二六四	—
サウスフォーストリヤ	一〇五八	一六二五	一七六
グイーンスランド	二、二〇七	一、九三〇	—
タスマニヤ	二一六	三二七	—
ウエストチーストリヤ	一三八	二五三	—

○ 雜 記

○富士馬車鐵道 六月二十二日開業式ヲ執行シ鈴川停車場ヨリ大宮町マテ十哩ノ間旅客荷物運搬ノ業ヲ始メタリ

○上毛馬車鐵道 ハ七月十四日ヨリ前橋字細ケ澤町ヨリ箱田マテ五哩間假開業シテ伊香保行旅客ノ便ニ供ニセリ

○會員洋行 理學士阪田貞一君ハ機械工學實地修業ノ爲メ獨逸國白耳義國佛國英國及米國ヘニケ年間留學工學士白井頼吉全山田佐久全和田垣保造ノ三君ハ造船學研究トシテ英國ヘ又工學士有阪紹藏君ハ造兵學研究ノ爲メ佛國ヘ各三ケ年間留學セラル、ト云フ

會員訃音 豫テ病氣ノ處療養叶ハス准員荒木季徳君ハ七月七日全園部正二郎君ハ七月十八日死去セラレタリト云フ